

江戸川大学男子バスケットボール部 保岡龍斗選手 日本代表で活躍

江戸川大学男子バスケットボール部の保岡龍斗選手が、U-24日本代表にも選出され、5月19日から21日にかけて行われた「第40回李相伯杯日韓学生バスケットボール競技大会」の3戦すべてに出場した。第3戦ではスタメンとして出場し、11得点を奪う活躍をした。(撮影・取材・文 日高那侑)



日韓学生選抜戦の結果は93対84で日本が勝利した。保岡選手は3ポイントシュー

トを2本決め、その他スクリーンなどで、チームに貢献していた。写真は保岡選手が

パスを受けゴールへと進んでいくところ、この後仲間へとパスを出し得点へ繋がった。

保岡選手のポジションは、F(フォワード)だ。U-24ではSG(シューティングガード)とPG(ポイントガード)を兼ねる。チームの中心的役割は、スリーポイントシュートを狙っていき得点を稼いでいくことだ。U-24ではSG(シューティングガード)とPG(ポイントガード)を兼ねる。チームの中心的役割は、スリーポイントシュートを狙っていき得点を稼いでいくことだ。

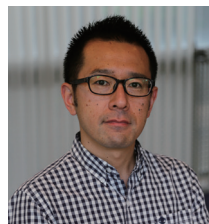
意識の変化が飛躍を生む

出場した2016年の第92回関東大学バスケットボールリーグ戦で、2部準優勝し、1部入替戦出場権と、チーム史上初となるインカレ出場を決めた。1部入替戦は、最終戦で明治大学に敗れ、惜しくも2部残留となったが、第68回全日本大学バスケットボール選手権(インカレ)は1回戦勝利し、ベスト16という成績を残した。また個人では同リーグ戦で得点王と個人賞4冠(総得点、1試合平均得点3ポイントシュート、スティール)を受賞した。

保岡選手は高校生の時にもインターハイやウィンターカップにも出場している。だが、現在のように活躍するまでには、おおきな意識の変化が二度あった。一度目の変化は、また高校生で、大学生の試合を観戦していたときだった。高校生とは、体つきが全然違うことに驚いた。今の体では戦っていけないのだと分かってしまったと保岡選手は語る。その時から、週に5日のウェイトトレーニングを欠かさずに行っている。

二度目の変化はU-24の合宿で守備や基礎の大切さを改めて思い知ったときである。合宿前まで保岡選手は、かなり攻撃に主をおいていた。だが、合宿前まで保岡選手は、かなり攻撃に主をおいていた。だが、合宿前まで保岡選手は、かなり攻撃に主をおいていた。

青木拓郎監督、保岡選手を語る



た。そんな保岡選手に、青木監督はもっとコート内外でチームの手本となるべき行動を示してほしいと言いつづけた。保岡選手がチームを代表する選手となった今は一層強く言っている。

保岡選手は、1、2年生のときは、何にたいしてでもストレートに意見を言う選手だった。勝ちたい、負けたくないとはっきりと意思表示をする。先輩やコーチに対してこんな練習じゃダメだと主張するほどだった。

現在のチームが勝つためには、保岡選手だけでなく、キャプテンの平岩アンソニーコリン選手とともに中心となり、攻守ともにペースをつかみ、それをみんなで支えていくことが大切だと考えている。

負けたくないと思っただけで、U-24のメンバーには1対1で何度か負けてしまっている。でも悔しい。しかし、敗北を認めることから得ることを、つねに考えている。それが自己変革につながってきたのだ。その結果、プロのレベルに近づいた保岡選手は、この経験を活かし、チームのレベルを上げていきたい。1部昇格の期待に応えられるように頑張りたい」と意気込んでいる。バスケ一筋の保岡選手だが、大学生活は堅実だ。現在は4年生なので、授業がないので、朝10時まではコートに入り、アシスタントコーチや同期の仲間と練習をしている。授業があった去年までは、バスケットと授業の両立を目指し、授業があるときはしっかりと出席していた。学業の面では、教職課程をとっていなかったことを、今も後悔している。スポーツ選手は60歳まで続けられるわけではない。だがその経験は教員として活かせる。卒業後でも教職課程をとることができれば、挑戦したいという。